



プロジェクト「NINOMIYA」



2011～



活動紹介

石狩周辺の森に眠る未利用材の薪作りを通して、森林と都市部の若者をつなぐ活動です。豊かな森林を次世代に残すため、森林と離れてしまった都市部の若者に木や森林に愛着を持ってもらうため、身近な木や森のことや北海道の森づくりについて伝えています。



2016年総括

今年度は多くの賛同者によりNINOMIYAを「育ててもらおう」年でした。ずっと実施したかった薪割りのスロー動画を取材時に撮影していただけたり、新たな未利用材の回収拠点として都市部からの未利用材を多くご紹介いただいたりと、関わって下さっている方の支援も加わりより大きい成果を残せたのではないかと感じています。(くま)

目的・背景

現在、海外から木材が流入し国産材の利用が低下している。そのため国内の林業の衰退が起きている。豊かな人工林には人の手が加わることが欠かせない。このままでは、次世代に現在残っている森林を残し続けることが難しい。そこで利用者が国産材にこだわって木材を使うことで森林の需要や価値が高まり上記の課題を解決できると考え、森林や森づくりに触れることで、参加した都市部の若者が国産の森林や木材に価値を持つことを目的としている。

実+施内容

活動・回数・参加人数
 ・薪作りツアー(薪割り・材だし・配送) 88回のべ443名
 ・RSRみんなで薪割りブースのべ301名
 ・子ども受け入れ 6回
 ・参加イベント(COOP育樹祭・植樹祭等) 5回
 ・合計95回のべ644名参加

ほか
 ・薪制作量 100m³
 ・販売先(レストランテ・ピッツェリア ダルセーニョ、森彦、Plantation、SappoLodge、Guest House waya、暮らし方冒険家、UNTAPPED HOSTEL、個人宅(8軒)他) 16軒

成果

薪作りツアーやRSRみんなで薪割りブースの運営などを通して、多くの人々に木を使う重要性や北海道の森づくりについて伝えることが出来た。特に今年度は前年度よりも子ども受け入れのプログラムが増え、子どもたちにも木を使ったアクティビティやクラフト体験を通して森の大切さや木のぬくもりを伝えることが出来た。また、前年度よりも薪の販売先が2件増えたことから、私たちの活動に賛同し支えてくださる薪ストーブユーザーの方が増え、薪作りを通してより森林と都市部の人々をつなげることが出来たと感じる。

声

ボランティア(20代男性)
 薪作りを通して、普段当たり前のことに木を使う重要性や北海道の森づくりについて伝えることが出来た。特に今年度は前年度よりも子ども受け入れのプログラムが増え、子どもたちにも木を使ったアクティビティやクラフト体験を通して森の大切さや木のぬくもりを伝えることが出来た。また、前年度よりも薪の販売先が2件増えたことから、私たちの活動に賛同し支えてくださる薪ストーブユーザーの方が増え、薪作りを通してより森林と都市部の人々をつなげることが出来たと感じる。

雪印種苗株式会社 環境緑化部 緑化事業課 木村浩二様
 以前は多くあったものの現代の日常ではなかなかできない手作業を体験できること、またそれを通して社会の循環の仕組み(一部ですが)や環境について考えたりするきっかけとなる、良い取組みだと思っています。



薪割りツアー



森に親しむ



RSRみんなで薪割りブース



作成された薪